

(様式 4)

平成 27 年度 日 立 市 教 育 研 究 会 先 進 校 等 調 査 派 遣 研 修 報 告 書

日 立 市 立 大 久 保 中 学 校 教 諭 近 藤 雄 二 郎

- 1 派遣期日 平成 27 年 12 月 11 日 (金)
- 2 研修先 学校名 京都市立朱雀第二小学校  
所在地 〒604-8491 京都市中京区西ノ京左馬寮町 3-1  
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103107>
- 3 研修内容

研究会テーマ 「心豊かでしなやかに生きる子の育成」

～自己を見つめ、柔軟に対応できる子どもを育てる道德教育の工夫～

#### 研究仮説

全教育活動を通じた道德教育の質を向上させる取組を全校で行ったり、児童の実態に即して展開を工夫したり、ねらいにせまるために有効な資料や映像を取り入れたりした道德の授業を積み重ねていくことによって、自己を見つめ、他者とともに柔軟に生きようとする子どもを育成できるのではないか。

#### (1) 主題設定の理由

社会が激しく変化し、価値観が多様化してきた今日において必要とされる「自己を見つめ、しなやかに生きる力」を身につけるために個と集団、社会との関わりを重視しながら、伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子供を育てることを目指したい。

そこで、本校の目指す子ども像「心豊かでしなやかに生きる子」をうけ、研究主題を「心豊かでしなやかに生きる子の育成」と設定し、全教育活動と通じた道德指導の工夫によって、主体的に自己を見つめる力や、よいと思ったことを実践する力、主体的に友達のよさを見つける力、主体的に相手と自分をつなぐ言葉を使える力、主体的に公共の仕事を見つけ最後までやりきる力をより一層育成したいと考え、本題材を設定した。

#### (2) 目指す子どもの姿 (研究)

#### (3) 研究の重点

◎全教育活動を通じた道德教育の質を向上させる取組を全校で行ったり、児童の実態に即して導入や展開、終末の流れを工夫したり、ねらいにせまるために有効な資料や映像を取り入れたりした道德の授業を積み重ねていくこと。

##### (a) 児童の実態に即した重点項目の決定

- 内容項目から、児童の実態に即した重点目標の決定と年間計画の作成

##### (b) 児童の実態に即した道德の授業での指導方法検討

- 導入 主題に対する関心・意欲を高める。  
ねらいの根底にある道德的価値の自覚に向けて動機付けを図る。
- 展開 (前) ねらいとする道德的価値にかかわる中心発問やその他の場面での基本発問によって、児童一人一人が、ねらいとする道德的価値の自覚を深める。
- 展開 (後) 資料を通して迫った道德的価値を、さらに深く自分自身の問題としてとらえられるように、自分とのかかわりの中でよりよい生き方を考え、自己の生き方についての考えを深める。
- 終末 ねらいの根底にある道德的価値に対する思いや考えを、まとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ。

##### (c) 言語活動の充実

- 話型や声の大きさのめやすの掲示

(声のものさし・話し方名人・聞き方名人・話し方のポイントなど)

- 自分の思いを自分の言葉を使って話し合えるグループ活動の取り入れ
- 自分の考えを描くことができるワークシートの工夫
- 道徳の時間の足跡を残す壁面掲示

(d) 学級経営の充実

- 自分の思いを安心して発表できる学級作り

(e) 学ぶ意欲を高める指導の工夫

- 児童の興味・関心をひきつける導入の工夫
- 体験的活動を取り入れた授業の工夫
- 児童の実態に即した授業の流れの工夫
- ねらいとする道徳的価値を考えようとする資料や映像の工夫
- 児童の考えをまとめる、分かりやすい板書の工夫

(4) 研究の進め方

(a) 日常の取組

- 生活指導
  - ・プラス面をよりプラスに、マイナス面をプラスにするような指導
  - ・子どもの気になる行動への気付きとその場での指導
- 各教科等の指導
  - ・各教科等の特質を視点とした道徳性を養う指導
  - ・指導法・指導形態を生かした指導
  - ・別葉の作成
- 自問清掃の取組
- 「ともだちの日」の取組
  - ・毎月10日前後を「ともだちの日」とし、学年ごとにテーマを決め、他者とともに生きようとする心を育てるための道徳の時間の設定
  - ・学習の跡を残すための「友達ファイル」の作成と活用
- 家庭・PTAとの連携
  - ・学級懇談会・学年通信の活用

4 感想

今回の研修で感じたことは、学級掲示物などの環境、年間を通した道徳への確実な取り組み、普段の先生方の意識の高さである。職場・職員が一つとなって児童生徒の心を育もうとする姿勢は、大変勉強になった。自分が担任をしていた時期にこのような系統的継続的な取り組みができていれば、もっと生徒の心を広く優しく育めたのではないかという印象を受けた。授業中の先生の呼びかけも穏やかで、子どもの気持ちに近づこうとしているのを感じた。そうした実践を全職員で積み重ねていくことで、児童生徒の心に深く響く道徳教育を展開していけるのであろう。見逃してしまっていることもまだあると思うが、本校の職員にも紹介し、さらに研修を深めていきたい。



学校正門



特別支援学級での板書



足跡を残す壁面掲示